



Data	2022-148
監督:	クロード・ミレール
原作:	フィリップ・グランベール『ある秘密』
脚本:	クロード・ミレール / ナタリー・カルテル
出演:	セシル・ドゥ・フランス / パトリック・ブリュエル / リュディヴィーヌ・サニエ / ジュリー・ドバルデュー / マチュール・アマルリック / ナタリー・ブトウフー

👁️👁️ みどころ

ナチス占領下のフランスで実行されたユダヤ人虐殺の実態は、『サラの鍵』（10年）等でも明白だが、意外にもこんな実話も！誰にでも多少の秘密があるのは当然だが、フランソワ少年が体験した「ある秘密」とは！？ホントにこんなことがあり得るの？そう思わざるを得ないが、実話だからすごい。

3つの時代をクロスさせながら自由自在に、映画なればこそそのテクニックを最大限駆使したストーリー構成は、クソ難しいが、メチャ面白い。しかし、本作最大の“ポイント”をあなたはどう理解？

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

■□■また1つ勉強！クロード・ミレール監督とは？■□■

2022年9月にはフランスの巨匠J・L・ゴダール監督が死去したが、“J・L・ゴダール、J・ドゥミ、F・トリュフォー・・・ヌーヴェル・ヴァーグの正統な後継者”がクロード・ミレール監督だ。へー、知らなかったなあ。もっとも、私はシネ・ヌーヴォで2022年12月17日から2023年1月6日まで実施している「生誕80周年記念 クロード・ミレール映画祭」のメイン作品たる『なまいきシャルロット』（85年）はそのタイトルだけは知っていた。しかし、シネ・ヌーヴォで公開されている『やまぶき』（22年）の鑑賞に合わせて、12月29日に、そんなクロード・ミレール監督の本作を鑑賞。その理由は、下記の紹介に魅せられたからだ。

あるユダヤ人家族。父親の愛情を感じられない病弱な少年は、両親が何か隠し事をしていると疑っている。第二次大戦を生き抜いた両親の秘密が、過去と現在を往来して紐解かれていく。フィリップ・グランベールの自伝的小説が原作の、ミレール晩年期の最高傑作と評される重厚な人間ドラマ。セシル・ドゥ・フランス、リュディヴィーヌ・サニエ、マチ

ユー・アマリックら当時の若手実力派が顔を揃えた。

これだけではなかなかわからなかったが、ウィキペディアを調べると、これは面白そう！

■原作は？ストーリーは？ ウィキペディアによると■

本作の原作になったのは、ユダヤ人の精神科医で、作家のフィリップ・グランベールが書いた同名のベストセラー小説。そして本作は①少年期のフランソワの時代、②成人したフランソワの時代、③フランソワが生まれるまでの、若き日の父マキシム、母タニアの時代、という3つの時間軸を、自由にクロスさせながら描かれるので非常に複雑。ある程度ストーリーが頭に入っていないと、理解しづらいかもしれない。そこで、ウィキペディアに書かれているストーリーをそのまま引用すると次のとおりだ。

第二次世界大戦後のフランスで、スポーツの得意な両親を持ちながら、病弱で運動の苦手なユダヤ系の少年フランソワは、自分とは対照的な理想の兄を空想の中で作り上げていた。そんなある日、フランソワは、授業でホロコーストの映像を見ている時にユダヤ人を侮辱する言葉を口にした同級生を殴りつけてしまう。この事件をきっかけに、父の友人で家族同然の付き合いをしている独身女性ルイーザから両親が長年にわたって封印して来た過去の秘密を聞かされる。それはナチス・ドイツ占領下のフランスで起きたユダヤ人迫害の忌まわしい事実であった。

フランソワの父マキシムと母タニアは、戦争前、それぞれ別の相手と結婚していた。しかも、マキシムの妻アンナとタニアの夫ロベールは兄妹だった。マキシムはアンナとの結婚式で初めて出会ったタニアに一目で惹かれる。マキシムとアンナの間に息子シモンが生まれる。シモンは父親に似てスポーツが得意であったことから、マキシムはシモンを溺愛する。その一方でマキシムのタニアへの想いは強くなり、その想いにアンナも気付いてしまう。

ナチス・ドイツの侵攻でフランス国内のユダヤ人にも危険が迫ったことから、マキシムらはひとまず田舎に逃れることにする。先に現地に行っていたマキシムからの連絡を受け、アンナとシモン、そしてルイーザらが現地に向かう。ところがその途中で身分証の提示が求められた時、あらかじめ用意していた「フランス人」の身分証明書を提示するはずが、アンナは敢えてユダヤ人であることを示す証明書を提示し、しかもシモンを自分の息子だと言ったために2人とも掴まってしまう。そのころのアンナはマキシムのタニアへの想いや両親の行方が分からなくなっていたことなどから情緒不安定な状態に陥っていたのだ。

「フランス人」の身分証明書で逮捕を免れたルイーザはマキシムに、アンナが「間違えて」ユダヤ人の身分証明書を提示してしまったと伝える。一方、夫ロベールが収容所に入れられていたタニアも現地にやって来ていた。そして不安に沈むマキシムをタニアが慰めるうちに、2人は深い関係になってしまう。

戦争が終わり、マキシムらはパリに戻って来る。アンナとシモンの生存が絶望視される中、ロベールが収容所で病死していたことが判明する。そして、タニアがフランソワを出産すると、マキシムとタニアは結婚し、名字の綴りをフランス風に変える。

その後、成人したフランソワが、アンナと兄シモンの行方を調べると、2人はピチヴィエ収容所からアウシュビッツに送られた翌日にガス室送りになっていた。フランソワは娘にこの忌まわしい過去の話をしてやることにする。

■□■キーは美女タニアと、もう1人の独身女性ルイーズ！■□■

1936年8月にベルリンで開催された第11回オリンピック競技大会はナチス・ドイツの国威発揚の絶好の舞台だったが、質実剛健を好むドイツ人は機械体操等の競技が大好き。フランソワ（マチュー・アマルリック）の父親マキシム（パトリック・ブリュエル）は、その典型だ。しかし、マキシムがアンナ（リュディヴィーン・サニエ）との結婚式にやってきた女性タニア（セシル・ドゥ・フランス）の美しさに目を奪われている姿を見ると、アレレ・・・？タニアの夫ロベールは、マキシムの新妻アンナの実の兄だから、なおさらだ。しかし、水泳（飛び込み）の選手として日々訓練を積んでいるタニアの際立った美しさを見ていると、それもやむなし・・・？

2022年2月24日にはロシアによるウクライナ侵攻というとんでもない事件が起きたが、1939年9月1日のナチス・ドイツによるポーランド侵攻によって、ヨーロッパにおいて第2次世界大戦が勃発！ナチス・ドイツの破竹の進撃は、東のポーランド、西のフランスの双方に及び、ナチス・ドイツ占領下のポーランドでもフランスでも、ユダヤ人迫害をはじめとするさまざまな悲劇が起きた。

本作は、病弱で運動の苦手なユダヤ系の少年フランソワが、空想の中で自分とは対照的な理想の兄を作り上げているシークエンスから始まる。そんな彼に、両親が長年にわたって封印してきた過去の“ある秘密”を語る女性がルイーズ（ジュリー・ドパルデュー）だ。

本作のストーリー構成において、このタニアとルイーズの2人の女性がキーになるのでそれに注目。本作は前述した通り、時間軸の異なる3つの物語を自由自在にクロスさせながら描いていくので、ついていくのが難しい。しかし、これくらいの予備知識があれば大丈夫！

■□■ナチス占領下のフランスで、こんな実話があったとは！■□■

ナチス占領下のフランスで、さまざまなユダヤ人に対する悲劇が起きたことは、『ヒトラ一もの、ホロコーストもの、ナチス映画大全集』（20年）の「≪第2編 ナチス支配下のヨーロッパ各地は？≫」一服従？それとも抵抗？国は？個人は？」の「第1章 フランスでは？」に収録した、①『シャーロット・グレイ』（01年）、②『トリコロールに燃えて（HEAD IN THE CLOUDS）』（04年）、③『黄色い星の子供たち』（10年）、④『サ

ラの鍵』(10年)等々を読めば明らかだが、さらに本作のような実話があったことにビックリ！

ただ、私が少し不思議に思うのは、フランソワ少年が生まれる前に、ユダヤ系の父親マキシムが一足早く田舎に逃れたのは賢明だったが、妻のアンナが一人息子のシモンを連れ、ルイーズたちと一緒にその後を追うについて、フランス風の名前に偽装したり、そんなパスポートを作ったりすることが比較的容易にできていること。これなら、ナチスの蛮行が激しくなる前に、多くのユダヤ系の人たちが国外に脱出できたのでは？そんな思いも湧いてくる。もっとも、本作のテーマはそこではなく、逆に、国外脱出が可能だったにもかかわらず、身分証の提示を求められたアンナが、フランス人の身分証明書を見せず、ユダヤ人の身分証明書を見せしてしまうこと。まさかそんなチョンボを犯すとは考えられないので、これはきっとアンナの意識的な行為だが、それは一体なぜ？それが本作全体を貫くテーマになる。

さらに、あえて言えば、終戦後フランスに戻ってきたマキシムがタニアと再婚し、フランソワが生まれた後の本作の物語は、一方ではシリアスそのものだが、他方ではどこかファンタジー色が強い。つまり、そんなことが本当にあり得るの？どうしても思ってしまうわけだ。しかし、そんな物語もクロード・ミレール監督の演出にかかれば、なるほど、なるほど……。時系列をバラバラにして、複雑に交差させながらさまざまな事実が描かれていくからこそ、3つの時代の物語がそれぞれに緊張感を保ち、かつ説得力を持つことになったのだろう。その意味でクロード・ミレール監督の手腕に拍手！本作の完成度の高さに拍手！！

2023（令和5）年1月13日記